

事業名

育てよう地域の「輪」・「話」・「和」

目標

学習支援・安全安心の町づくり

1. 取組の視点

「子どもの元気は校区の力、地域の力。」「子どもが育てば地域は育つ。」「育てよう地域の輪、話、和。」を目標として、本年度は、学習の支援が定着するようにボランティアさんから上がる声からの取り組み、地域の安全に関わる取り組み、先進校に学び地域教育力の向上を図る取り組みを中心に、コーディネーターの力量を高めるための社会教育力強化プロジェクトにも参加しました。

2. 取組の概要

「寺小屋プロジェクト」では中学生の“冬休み宿



題助け隊“をボランティアさんらと共に学校を

巻き込みながら取り組みを行いました。

先進校視察では京都の修学院中学校を訪問し商店街を巻き込んだバザーや部門別の取り組み、アントレプレナー教育など多くを学びました。



また地域の安全を守っていただく見守りボランティアの方々に感謝を込めて子ども達のお礼の文を入れたカイロをお渡ししました。

文科省との共同研究に参加し「つるし柿プロジ

ェクト」を立ち上げ地域ブランド製品の開発、コ



ーディネーターの力量を高める取り組みをしました。小学生から始め、終盤には中学生まで巻き込

む調査活動に持ち込むことができました。



3. 成果と課題

寺小屋プロジェクトでは参加生徒と地域ボランティアの交流が深まり、講師さんの積極的な取り組みが顕著でした。見守り活動の方へ、子ども達が感謝の気持ちを込めた手紙を入れたカイロを渡せたことや先進校を視察することで、活動の方向性が見えました。また社会教育による地域の教育力強化プロジェクトに参加し「柿プロジェクト」に取り組み、参加の子ども達が積極的に取り組み、成果があがりました。課題としては、先生方との協力、コーディネーターと先生方のコミュニケーションの重要性、やるほどに会議の増加、事務処理、担当者の負担の多さ、ボランティアルームの充実などがあげられます。

事業名

豊かな人間性の育成

目標

大きな舞台での発表や職場体験等で、豊かな人間性を育成する。

1. 取組の視点

「まずは子どもありき」。その子ども達との人間関係、信頼関係を大切にしながら、子ども一人一人に知・徳・体の調和のとれた人格を形成し、未来を担える人間を育成するため、本校区では、家庭・学校・地域が一体となって、生徒の自主性や自立心、そして豊かな感性を育ててきました。

春のベゴニア、秋のパンジー等の花作りを、情操教育の一環として定着させ推進させたことは、保護者や地域の中でも高く評価されています。

さらにそれらを高めるため、今年度も土作り、施肥、灌水などの比較的長期的な作業をとおしての花作りを、いたわりの心や感動、また、環境や物を大切にするなど豊かな心を育む取り組みの一つとして、推進してきました。また、上記取り組みと共に、大きな舞台での発表や、職場体験等の様々な体験から、自ら学ぶ意欲や問題解決する能力等を養い、子どもたちの感性を高め、豊かな人間性を育成してきました。

2. 取組の概要

本校では、生徒全員に大きな舞台での発表を体



験させ、コミュニケーション能力や、相手を思いやる豊かな感性を高めさせるため、9月15日に文化会館を貸し切り、クラス合唱や文化発表等を体験させました。

また、9月22日には8人の講師（看護師、奈良交通社員、消防署職員、保育師、美容師、マナ

ーインストラクター、ケーキ職人、調理師）を招聘し、働くことのすばらしさや厳しさを理解させ



たうえで、職場体験を実施することができました。

さらに2月2日には、助産婦さんの講演も聴くことができました。

6月9日には、2年生がベゴニアを、12月12日には1年生がパンジーの花苗（3色）を、一人ひとりがそれぞれのプランターに植える体験を実施しました。また、12月14日には、各クラスにシクラメンの花を飾ることができ、生徒たちの感性を、さらに高めることができました。

3. 成果と課題

この事業を実施することで、子ども一人一人が学校で大切にされていると実感すると共に、互いにコミュニケーションを深くとるようになり、子どもたちの友情とコミュニケーション能力が高まり、豊かな人間性の育成につながりました。

一つの大きな目標に向かって、みんなで真剣に取り組む中で、相手を思いやり、相手の思いを感じ、相手の身になって考えられるような、豊かな感性も育ちました。

職業調べ講演会では、それぞれの職業に従事しておられる上での、喜びや苦勞、心がけなど様々な内容を聴かせていただき、進路について考え、社会人としての意識や態度を育て、その後の職場体験では、子ども一人一人に、彼らの個性が生かされる場が提供できたと確信しました。

事業名

やる気・元気・優しさあふれる青和っ子プラン

目標

人間性豊かで自主的に生活をきりひらくたくましい児童を育てる

1. 取組の視点

本校では教育目標に「人間性豊かで、自主的に生活をきりひらくたくましい児童を育てる」をかかげ「一人一人が個性を發揮し意欲的に学び合う学校」《話・和・輪》を活かした地域連携による子どもの育成をテーマとし、事業を推進してきました。みんなの和を大切に、地域の様々な場面で活躍されている方々の支援を受けながら学び交流を行い、「学力の向上」と「生活力の向上」をめざしたいと考えました。

2. 取組の概要

学力面では、豊かな表現力（伝え合う力）の育成のために、語彙力を豊かにしコミュニケーション能力の向上を図る取り組みを進めてきました。

子どもたちの知的探求心を育て、自ら学ぶ楽しさを体感させ、確かな学力を身につけさせるため、講師の先生を招聘し、教師の指導力を高める実践的な研修を行いました。

今年度も、語彙力を豊富にする取り組みとして、国語辞典の活用による調べ学習を日常的に実施しました。そして、図書の実用をはかり、地域からは図書館支援として、3つのグループの図書ボランティアの方々に読み聞かせをしていただき、また本の整理・修理、掲示物の作成など図書館環境の整備をしていただきました。



生活面では、「あいさつがこだまする学校」をめざし、児童会が中心となって「あいさつ運動」に取り組みました。

地域では、登校時の見守り活動に重点をおき、朝早くから、子どもの安全と命を守るために交通安全ボランティアの方々に立哨していただいています。あいさつをとおして心がふれあい、「自分のことを大切に思ってくれる人がいる。」このことで心の絆が深まり、コミュニケーションの輪が広がっています。



栽培活動では、毎年5月に2年生を中心に栽培活動支援員の方から、さつまいもの苗の植え方を具体的に教えていただきました。11月の収穫祭では、支援員の方を招待し感謝の気持ちを言葉や手紙にして伝え、交流を深めました。

この他にも多くの地域の方々に支援していただきました。

3. 成果と課題

学力面では、豊かな表現力（伝え合う力）の育成のために、教師の指導力を高める実践的な研修を重ねました。結果、子どもたちの知的探求心を育て、自ら学ぶ楽しさを体感させ、確かな学力を身につけさせることができました。そして、国語辞典の活用による調べ学習を日常的に実施することで、語彙力を豊富にすることができましたが、辞典の冊数が充分とはいえず、来年度は増やしていきたいです。

また、交通安全ボランティアの方々による見守り活動をとおして、心がふれあい、絆が深まり、青和コミュニティーの輪が広がっています。

事業名

「磨けよ心、鍛えよ体」地域と学ぶ二名っ子

目 標

地域の方から学ぶことで、豊かな心や人間関係力を育み、

1. 取組の視点

- ・「体力・運動能力」の向上
- ・「豊かな心」や「人間関係力」を養う

以上、本校児童のこの2つの課題克服に向け、教職員の研修・研究を深め、子ども自らが運動する喜びを感じることを大事に、体力・運動能力向上の取組をすすめてきました。また、様々な人と人とのふれあいの中で、人と関わることの喜びを感じ、「人と関わりたい、繋がりたい」という意識を育て、人間関係力を高めようと取組を進めてきました。

2. 取組の概要

体力向上については、大学院准教授との連携により研究協議を2回、体育の研究授業を3回行いました。また、普段から相談にのってもらいなど、最新の体育の指導方法を学ぶことができました。

**「先生も遊ぼう」で先生もがんばってます。**

「縦割りでの遊び」や「先生も遊ぼう」「縄跳びの大会」等々様々なイベントを企画しました。さらには児童が目標を持ち楽しむために遊具の色を塗り替えたり、竹馬や一輪車などの置き場所等にも工夫しました。その結果スポーツテストは、以前より格段に良くなりました。また、友達との関係性や仲間意識・低学年への心配り等、人間関係力も深めることができましたと考えます。

地域のボランティアの活動も活発に行われており、図書ボランティアには年間を通して読み聞

**感謝の気持ちを込めてお礼の手紙を送りました。**

かせを行っていただきました。安全パトの方々には「町探検」や「昔遊び」などの指導をはじめ、今年度は「みんなにやさしい町作り」と銘打ち、地域の安全を見守る人々の願いを児童に話していただいた。そのことをきっかけに、安全パトの巡回に同行し清掃活動をしたり、幼稚園児に本を読みに行ったりと、自分たちにできるボランティア活動を繰り返し広げられました。

また、ボランティアグループ「二名きっずくらぶ」ではテーマソングも完成し、児童とともに大人も「この場所にきて良かった」という声も聴かれました。

3. 成果と課題

「豊かな人間関係作り」このことについては数値的に測れるものではないが、二名の児童は地域の方々とのつながりや、子ども同士のつながりのなかで、お互いの良さや違いを認め合い、心温め合うことの大切さを確かめ合うことができました。

ただし、両課題ともまだまだ完全に克服できたわけではありません。日々の生活においても相手の気持ちを無視した行動や言動はまだ残っています。今回の成果に甘えることなく、さらに地域・家庭・学校が連携しあいながら、課題克服に向け努力していきたいです。

事業名

心が動く・体が動く・笑顔が輝くみんなの幼稚園

目標

幼児が多様な環境（人・物、自然）と出会い、心を動かす感動体験

1 取組の視点

本園では、幼児の「心や体が動く」感動体験を重ねられるような幼稚園生活を目指しています。そのために保護者・地域の協力を得て豊かな経験ができるよう、地域の人材を生かすなどして、保育内容に様々な体験活動を取り入れました。いろいろな人と関わり合いながら生きる力の基礎の育成をねらいとしています。

2 取組の概要

地域の方の力を生かして、「空手教室」「英語で遊ぼう」「リトミックで遊ぼう」「わらべうたで遊ぼう」など様々な体験活動を実施しました。

空手では大きな声を出して、体を動かし礼儀も学びました。英語で遊ぼうでは、楽しく英語にふれることで、世界の国に興味を持つきっかけになりました。リトミック教室では、いろいろな音に合わせて楽しく動物たちを表現し、リズムカルに動く楽しさを味わいました。また、わらべうたで遊ぼうでは、わらべうたやお手玉を使って楽しいふれ合い遊びをしました。奈良の昔話を聞くことで奈良の歴史を感じることができました。

「お話広場」としてお話を聞く機会をつくりました。地域の方の昔話の語りを月1回、お母さんによる絵本の読み聞かせを月2回継続しました。絵本の購入もあいまって、お話が大好きになり、話を集中して聞く力もつけることができました。

11月の家族参観では、小学校の体育館で親子一緒にカプラで遊びました。たくさんの家族がひ



とつの場に集まり、みんなで一緒になって製作することの楽しさを味わいました。11月にはミニSL機関車にも乗りました。好天気の下、園庭に敷かれたレールの上を走り、みんなの笑顔が輝いていました。この経験は汽車ごっこ遊びにつながっていきました。



地域の民生委員さんと11月と1月の2回交流しました。11月は、ペープサートの劇をしてもらい、園庭にたくさんできた柿をとってもらって一緒に食べました。1月にも昔遊びを通して楽しいふれあいの時間を過ごしています。

また、園内の環境を見直し、地域ボランティアによる樹木の剪定作業をしていただきました。親子草引きも年3回実施し、美しく明るい環境をつくりました。

3 成果と課題

地域の方々の温かい人柄に触れ、多様な直接経験ができたことは、教育目標である「心豊かな幼児を育てる」取組になったと考えています。また、日頃の園児の様子や地域で決める学校予算事業の取組の様子を掲示板やプリントで、時季に応じて保護者に知らせたことで、園の取組に対する園評価を高めることができました。

これからも地域の方々と保護者、職員が連携を深めながら、地域の子育ての基地となる「みんなの幼稚園」を目指して取り組んでいきたいと考えています。

事業名

二名大好き 奈良大好き・ふれあいいっぱい大きく育て

目 標

様々なふれあいや、心に響く感動体験を通して、心豊かでたくましく生きる幼児を育てる

1. 取組の視点

様々な物や出来事にてあうこと、地域の方々と触れ合うこと、地域の人材をいかした保育内容の充実を図ることなど、感動体験を計画的・継続的に積み重ねていくことが大切であると考えました。その中で、人とかかわる力や、花・野菜などの生長を喜び、収穫し食べる楽しさ、命を大切にしようとする気持ちを育成すると共に、日本の伝統文化、守り継がれてきた世界遺産などにふれることで、奈良の歴史に関心をもち、愛し守り伝えていこうとする気持ちを高めていきたいと考えました。

2. 取組の概要

(お茶会) 9月

祖父母参観にお茶会を実施しました。琴の音色を聴きながら、心を落ち着かせ、“この時”を大切にし、自分ではなく相手のために心をこめておもてなしをするという“一期一会”の気持ちでお茶をたてました。家庭で正座をしたり、お茶をたてる経験をする幼児や茶碗を運んだり、家の手伝いをするようになり優しい心と日本に受け継がれる美しい心が育ちました。

園外保育～興福寺～ 11月

県庁の屋上から、東大寺・興福寺・若草山など奈良の景色を見た後、興福寺



に行きました。興福寺では、阿修羅像や仏頭・千手観音などの仏像や五重塔を見て、大きな感動を味わいました。その感動を絵画や土粘土などで表現したり、日本の歴史に興味をもち、“やまのおろち”を学んだりしました。このお話しを自分たちの生活におきかえ“やま^とのおろち”の創作劇にしました。保護者や地域の方に見て戴いたことで、奈良の良さを見直され、園の教育を理解していただきました。

花や野菜の栽培 (通年)

地域の方と一緒に土を耕し、花を植えたり、親子で野菜の栽培をしたりしました。水やりや草引きなど一所懸命世話をする中で、生長を喜びあい、自然の不思議さや小さな虫や花にも役目や命



があることに気付きました。また、収穫した野菜を自分たちで調理し、地域の方を招待して一緒においしく食べました。地域の方に自分たちで書いた手紙を届け、“さつま汁パーティ”を計画したことを認めてもらったことで自信もつきました。

3. 成果と課題

日本の伝統文化に触れ、世界遺産学習をする中で、地域の神社に出かけたり、地域の方のお話しを聞いたりして、自分たちの住んでいる所の良さに気付き、愛する心が育ちました。また、地域の方と感動体験を味わう中で、自己発揮し意欲的に活動できるようになりました。今後も地域の環境や人材をいかし、交流を深めていくと共に、小学校・中学校の連携も密にしながら長いスパンの中で育てていきたいと思ひます。